2025年3月23日　説教「御足に香油を塗った女」

ルカの福音書7章36～50節

前回は7章28～35節から学びました。獄中のバプテスマのヨハネすら地上で得られなかった恵みをクリスチャンは天上で受けられる事と「笛吹けど踊らず」は私たち自身の姿ではないかとも問われました。

１．ヨハネのプテスマを受けた者と受けなかった者（36～39節）

①パリサイ人の家の食卓に（36）**「さて、あるパリサイ人が、いっしょに食事をしたい、とイエスを招いたので、そのパリサイ人の家に入って食卓に着かれた。」**

パリサイ派に属する一人が、イエスを食事に招きました。あのニコデモも同じパリサイ人でしたが、夜にイエスのもとにやって来ました。彼がサンヘドリン（ユダヤ人議会）の議員であったことにもよりましょう。逆に普通のパリサイ人がこのように、イエスを招くことがあったと考えられます。

②罪深い女が（37～38）**「すると、その町にひとりの罪深い女がいて、イエスがパリサイ人の家で食卓に着いておられることを知り、香油の入った石膏のつぼを持ってきて、泣きながら、イエスのうしろで御足のそばに立ち、涙で御足をぬらし始め、髪の毛でぬぐい、御足に口づけして、香油を塗った。」**

さて、その食事会に一人の女性が紛れ込んでいました。というのは、その女性は誰もが罪人を認めるような人だったのです。ところが、彼女はイエスを認めると、泣いた涙でイエスの御足をぬらし、それを髪の毛でぬぐい、御足に口づけし、石膏の壺から香油を注いで塗ったのです。

③パリサイ人は心のなかで（39）**「イエスを招いたパリサイ人は、これを見て、『この方がもし預言者なら、自分にさわっている女がだれで、どんな女であるかを知っておられるはずだ。この女は罪深い者なのだから』と心ひそかに思っていた。」**

それを見て、例のパリサイ人は心のうちに、こんなことを思いました。イエスが預言者であるならば、彼女が罪深い人であると認め、その罪についてさばかれるはずだと考えたのです。

２．子どもたちの言い交しのたとえ（40～43節）

①シモンに向かって（40）**「するとイエスは、彼に向かって、『シモン。あなたに言いたいことがあります。』と言われた。シモンは、『先生。お話し下さい。』と言った。」**

このパリサイ人の名前がここで明らかにされます。イエスは彼に名前で呼びかけられます。『シモン、あなたに言いたいことがあります』。彼は少しどきっとしたかもしれませんが、丁重に、『先生。お話しください。』と答えました。

②金を借りた二人（41～42）**「ある金貸しから、ふたりの者が金を借りていた。ひとりは五百デナリ、ほかのひとりは五十デナリ借りていた。彼らは返すことができなかったので、金貸しはふたりとも赦してや**

った。では、ふたりのうちのどちらがよけいに金貸しを愛するようになるでしょうか。」

イエスはたとえを話されました。二人のうちの一人は 500 デナリ、もう一人は 50 デナリ、借りていたというのです。一デナリは一日の労賃でした。金貸しは二人とも、それを返せないことをみて、返済免除を決めたのです。イエスの問いはどちらが金貸しをより愛するでしょうかというものでした。

③シモンの答え（43）**「シモンが『よけいに赦してもらったほうだと思います。』と答えると、イエスは、『あなたの判断は当たっています。』　と言われた。**

パリサイ人シモンは答えました。「それは余計に赦してもらった方です」と。何か特別の理由がない限り、誰しもそのように答えるでしょう。イエスも答えられました。「あなたの判断は間違いありません」。

３．子どもたちが証明（44～50 節）

①シモンへの答え（44～46）**「そしてその女のほうを向いて、シモンに言われた。『この女を見ましたか。わたしがこの家に入って来たとき、あなたは足を洗う水もくれなかったが、この女は、涙でわたしの足をぬらし、髪の毛でぬぐってくれました。あなたは口づけしてくれなかったが、この女は、わたしが入って来たときから足に口づけしてやめませんでした。あなたは、わたしの頭に油を塗ってくれなかったが、この女は、わたしの足に香油を塗ってくれました。』」**

イエスは女のほうを向きつつ、シモンに語ります。彼女は、御足をぬらし、髪の毛で拭い、御足に口づけし、香油を塗ってくれたのに対し、シモンは洗足の水を出さず、足に口づけせず、頭に油を塗ってくれることもなかったと述べられました。

②あなたの罪は赦されている（47～48）**「だから、わたしは『この女の多くの罪は赦されている』と言います。それは彼女がよけい愛したからです。しかし少ししか赦されない者は、少ししか愛しません。』そして、女に『あなたの罪は赦されています』と言われた。**

このことから、イエスはこの女について、「多くの罪は赦されている」と言われ、その理由は彼女がより多く愛したからだと述べられました。それに対し、少し赦された者は、少し愛したからだと言われます。その上で、イエスは『あなたの罪は赦されました』と宣言されたのです。

③あなたの信仰があなたを救った（49～50）**「すると、いっしょに食卓にいた人たちは心の中でこう言い始めた。『罪を赦したりするこの人は、いったいだれだろう。しかし、イエスは女に言われた。『あなたの信仰が、あなたを救ったのです。安心して行きなさい。』」**

屋根の上から吊り下げられた人も、「あなたの罪は赦されました」と言われましたが（5:20）、その時パリサイ人たちは神の他は罪を赦すことはできないことを述べましたが、食卓についた人々も同様の反応でした。イエスは「あなたの信仰があなたを救った」と女の信仰を認められました。

《結論》　今朝の聖書箇所について、三ポイントで見ていきます。

第一に、たとえ話について考えます。二人の金を借りた者たちのどちらがよけいに金貸しを愛するようになるか、という問題についてです。余計に赦してもらった方だと答えたシモンに、イエスは正答とされています。こうした時に、よく聞かれるのが、いや実際にはそんなことはなく、現実には多く借りた者は調子に乗ってしまうといった疑問です。実際、イエスはマタイ 18 章において、一万タラントを借りた人間が免除されたのに、わずか百デナリを貸した人の首を絞めてまで返せという、たとえ話をされています。とすれば、多く借りて免除されても現実的には感謝の心も忘れてしまうのが人間の罪です。しかし、今朝の聖書箇所において語られたたとえ話では、エスは単純に 50 デナリと 500 デナリを比較させているのです。たとえ話を読む時には、その内容を詮索し過ぎないことが大切です。

第二に、それではイエスは何をこのたとえ話から教えようとされているかです。この女は、これまでの人生において大きな罪を重ねてきました。シモンとは外側において、比べることができないほどの差があります。しかし、彼女は、泣きながら涙を流し、ぬらしてしまった主の御足を髪の毛で拭い、口づけし、高価な香油を塗ったのです。彼女の行動の秘密はその涙にあります。彼女はイエスに出会って、自らの罪を切実に示されたのです。キリストの聖さにふれて、彼女は数々の罪を認めたのです。主イエスはそこに彼女の信仰を認め、その罪を赦してくださったのです。シモンと比べるならば、彼女は多く愛し、多く赦されたのです。500 デナリを免除されたようなものです。一方のシモンは 50 デナリを免除された人のようで、少ししか赦されなかったゆえに、少ししか愛さない者だとたとえで教えておられるのです。

第三に、このたとえ話は私たちにとってどんな意味があるのでしょうか。この女の行動を真似して報いを期待するのでしょうか。ローマ書 5:20 を開きましょう。「しかし、罪の増し加わるところに恵みもみちあふれました。」とあります。これを、恵みが満ち溢れるために罪を犯した方が良いなどとすることは誤解です。それでは、これはどのような意味なのでしょうか。私たちは自らの罪というものを、全くわかっていな者たちです。まさかそんなところに罪が潜んでいるはずがないと思うところに、罪は横たわっているのです。善行と思って、心ひそかにいい気持ちになっているところにサタンは忍び込んでくるのです。パウロは「私のしていることがわかりません。私は自分がしたいと思うことではなく、自分の憎むことを行っているからです」（ローマ 7:15）と告白しています。人が自らの罪を知れば知るほどに、その罪のためにも主は十字架で死んでくださったご愛を知り、赦しの恵みは私たちに増し加わってくるのです。その意味では、この女が聖なる主に接して、泣いて涙を流し、赦しの恵みを得た出来事が、私たちのものとなるように、もっと主を求め、生ける主に触れさせていただきましょう。ケイト・ウルマーという方が 1899 年にこのよう歌っています。「罪けがれは、いやますとも、主の恵みもまた、いや増す

なり」（聖歌 701）。罪の赦しの恵みがあなたの上にありますように。